

第4回レインボープラン評価検討委員会

会 議 録

日時：令和3年10月11日14時00分～15時00分

会場：市役所2階市民防災研修室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

本日は第4回ということで、これまでの会議で出していただいた意見を基に、提言書のまとめを行う。みなさまにはご意見やご質問等あれば出していただきたい。よろしくお願いいたします。

3. 協 議 【座長：山形大学 下平裕之 教授】

(1) 長井市レインボープランに関する提言書(案)の修正点について（事務局）

【提言書全体を通して】

- ・事前に配付していた案は文字だけの提言書であり、見た目にも難しそうでとっつきにくさを感じるとの意見があった。

→写真やグラフ、SDGsマーク等の活用で見やすくなるよう修正した。

- ・本文中の文言について、補足や表現の修正に関する意見を頂いた。

→意見のとおり修正した。

- ・10ページの【提言】において、レインボープランは市民活動の中から生まれたものであることを踏まえると、一番の柱になるのは『まちづくり』ではないかとの指摘を頂いた。

→提言1を『協働のまちづくり』とし、以下、提言2を『生ごみの資源循環』、提言3を『持続可能な農業』と順序を変更した。

- ・提言の文末がすべて「～してください」と行政への要望の形になっている点に違和感がある。今後も協働のまちづくりの理念を継承して、行政だけでなく、市民も一緒に取り組んでいくべきものでは？行政へ向けた提言であると同時に市民に対する提言でもあるべきでは、との指摘があった。

→提言の文末を「～しましょう」という表現にすべて見直した。

【9 ページ～11 ページ農林分野について】

- ・9 ページ、提言の冒頭部分、事前に配付していた案では、農林分野の目的については、一旦その役割に一区切りをつけるという表現をしていた。これは、レインボープラン以外の堆肥の利用による環境保全型農業や、市内での地産地消が浸透してきたことを理由としたもの。しかし、SDGs やみどりの食料システム戦略が掲げられ、長井市でも今後ますます有機農業が拡大される情勢の中で、このような表現では、長井市ではこれらの取り組みは十分で、現状で良いのだと読み取れ、後退感があるとのこと指摘を頂いた。そうではなく、今後、市が積極的に持続可能な農業に取り組むという姿勢を示し、そのなかで、レインボープランの活かすべき点は活かし、見直すべき点は見直し、持続可能な農業の今後の発展に貢献していくという姿勢が示されるべきだろうとのこと意見を頂いた。
→これらの指摘を受け、表現を修正した。

（ここで、修正案に目を通す時間を設ける）

（2）質疑応答

委員 A： 前回、都合により欠席した。前々回はレインボープランの現状の課題について話合った。そして前回は、SDGs の観点からワークショップを開いて、これからどうしよう、どうしていけばいいのかについて、みんなで出し合ったというのを議事録で拝見した。余談になるが、私は農業者であり、畜産と牛の肥育と米の生産をやっている。その中で卸しさんと話す機会があり、米の消費の落ち込みの話題になった。コロナ禍で外食ができないことが要因であることは間違いないが、レインボープランの大きな課題である食品残渣、外食や中食、いわゆるデパートで売られている惣菜関係も含めて、消費されない食品残渣、これも含めて“消費”なんですよと。確かに家庭での食事が増えて、絶対量は食べているはずだが消費が減っている。外食で飲んだ食った酔っぱらったで残される、あれも消費なんですよ、と。なるほどなと思った。このロス分というのがこれまでコンスタントに消費されてきた、コロナ禍前の数値とのギャップに当たるんじゃないですかということで、私も目からうろこということか、別の角度から消費というものを考えさせられた出来事だった。

提言書について、提言の冒頭で、先ほど事務局からあったが、当初の文章だと後退感があると。修正案では市民に訴える感があって良い。続いて10 ページ、これまでの理念は理念としながらも、『今後は軸足を環境、教育、まちづくりに移し〜』というのはまさに市民一人ひとりを巻き込んでいく形が伺えて良い。

提言1 では、協働と共生が目にとまった。市民が主体と考えれば全くそのとおり。

提言2 では、“市民一人ひとりが〜” とあり、市民一人ひとりに訴える提言になっているところを評価したいと思う。

委員 B： 事務局からの説明であつたとおり、すごく見やすくてぱっと見素晴らしい提言書に生まれ変わったなと思う。文言についても委員からの指摘を取り入れて改正されている

点が良かったなと思う。

結局、これからどうしていくんだというのは、長井市の行政の立場で考えることであって、我々の立場で考えることではないのかもしれないが、最後 11 ページの提言 3、“これからの農業とコンポストについて”で、何をしていけばいいのかを考えたときに、まちづくりも併せて考えると、家庭用とか、もう少し大きい地域用のコンポスト製造機というのが、色々な形で世の中に出回っている。それを、例えば町内会で一つ設置して維持していく。電気代や管理方法など、いろんな問題が出てくるとは思うが、なんとか一歩踏み出せば、地域の考え方も一段階上がる気もするし、出来たコンポストは町内会で家庭菜園をしている人が無償で使って良くて、もし余ったコンポストがあれば市が有償で買い取って別のルートに回すなど、そういったことが出来ればいいのかなと思った。市民の方は、高い意識レベルを持って参加してくださっている人が多いと思うが、事業者、例えば居酒屋とか料理屋とかは、毎日クリーンセンターまで持って行って廃棄する方も多いのかなという印象がある。そういった方の把握はされているのか、また声がけ等はされているのか、声がけはしているけど、なかなかご協力いただけないのか、そのあたりについて、先ほどの寒河江委員の食品ロス、食品残渣の話聞いて思ったところ。提言書については、すごくまとまって良いものになったと思う。

座 長：事業者の食品残渣、生ごみ処理について、事務局の方では把握されているか。

事務局：今、データを持ち合わせていないので、後日報告させて頂きたい。

委員 C：提言書は非常にまとまっていて、写真があったりグラフがあったり、見やすくなり良かったと思う。提言の 1 から 3 に関して、これまでの話し合いの中でのみなさんの意見が取り上げられて良かったと思う。ただ、私個人的な考え方は、初回で話させていただいているが、人口が減る中で、出来るコンポストの量は決まっているので、どこにどのように入れるか、どのように有効に利用していくかが大切だと思っている。例えば、長井市の学校給食にはレインボー認証米が供給されているが、今になってほかの自治体で同じような取組みがニュースになっていて、長井市では今に始まったことではなく、ずっと続いてきているのに話題にもならない。

他がレインボープランに追いついてきていて、追いつかれている私たちは意識が低くなっているのではないかな。そこをもう一回しっかりとアピールしていくべき。

コンポストセンターが老朽化し、今後どうするかというのが背後にあるので、なんとなく尻込みしてしまうところがあるのかもしれないが、良いことをやってきたので、もっと自信をもって外にアピールしていくことは大切。ここまでやってきたコンポストを、今後、どこにどのように使っていくかがポイントだと思う。

手前みそになるが、長井に来てからずっと、鈴木酒造さん、福島県の浪江町で酒蔵をやっていたが津波で蔵を流されて、長井に来て酒造りを始め、今年からまた浪江で蔵を再開したという方とお付き合いしているが、そこで造った“甞る”というお酒の酒米は、この地域の在来種“さわのはな”という酒米をレインボーのコンポストを使って育てたもの。当初飯米だったが、酒米としても非常に有用なもので、今度のリリースで 10 年になる。全国でも売られているし、先日、別の地域の酒屋さんに入ったら、“循環

型の取り組みで造られたお酒”ということがトップに書かれて販売されていた。福島県に戻ってもそういうお店をよく見かける。

特に狙ったものではなく、当時避難してきた人達とレインボープランをやってきた人たちの想いが重なり協力してできたお酒だが、うまく6次化が成功した例の一つだと思っている。全国に長井市の循環により出来たお酒ということが出ていることを考えると、やっぱりなくすわけにはいかないと思っている。

たまたま、今日この会があるからというわけではないと思うが、今朝、鈴木酒造の社長さんから電話があり、「レインボープランはこれからどうなるんですか」と聞かれた。

“甦る”は会社の主力商品の一つであり、無くなっては困る、と。実はさわのはなを増産してくれという話も頂いている。全国的にも非常に受けがいいし、志も高いし、まるっきりなくなってしまうと困ると。委員 B から事業者の方の食品残渣の話があったが、一方で、それらをうまく利用して全国的にも知られる商品を造っている事業者もいることを考えると、私たちはこれまで時間をかけて話してきたが、そういった場面に事業者の方も来てもらって話をしてもらおう場も必要なのかなと思う。レインボープランを立ち上げた方々の話も聞きたいし、現状、ずっと関わっていらっしゃる方の話も聞きたいしという気持ちもある、そういった方々の声をすくい上げる場があっても良いのかなと思った。

委員 D: 前に配られた案は文章ばかりで中々疲れるなあと思って読んでいたが、修正案は写真が入ったりグラフや SDGs のマークが入ったりしてとても見やすくなって良いと思った。共生とか協働のまちづくりという言葉が入り、経済だけでは無いんだよという思いも感じ取れて良い。生ごみについて、息子が市内にいるが、「親父には申し訳ないが、生ごみは燃えるゴミに出している」と言われた。今の時代で週2回の生ごみの日まで保管しておいてまで出せないという若い世代の人は多いのかなと思う。農業者でも、堆肥は使うが生ごみは・・・という人もいらっしゃる。若い人から聞きとりしたり話し合っていたくのが、これからのことを決めるためには重要だと思う。

堆肥の使い方はいろいろある。私のところでは、保存会で地区毎に花壇を作っているが、ふつうはマルチでビニールを張るが、私のところはレインボーのコンポストで花壇を覆う。そうすると土は段々良くなるし、みなさんが草取りに来てくれる。マルチだとそれで終わりだが、コンポストだとみなさん一生懸命手をかけてくれる。毎年同じところでやると土が段々良くなるのが、みんなわかる。こういう取り組みを子どもたちも一緒に続けていくことが大事なのかなと思う。

コンポストセンターは年々修理費がかかって大変だというのはわかるので、今、協議会の小林さんも家庭でできるコンポストをやっているが、長井の中でも家庭菜園をみんな一生懸命やっているので、自分のところの生ごみを使って作るのもよし、余ったら、大きな入れ物に集めて、誰か使ってくださいよ、というのも良いのではないかな。施設にばかり手をかけないで、何とか循環の形は残すような、思いも残すような方法で進めればなと思う。若い人に色々聞き取りして、これからのことを考えていくのがいいのかなと思った。

委員 E：事前に配付された提言書、子育てに追われ、時間のない中読んだが、私のような一般市民には内容的に難しくて、前回の会議が終わってから、私にできることは何だろうとすごく考えた。最近、CMでも新聞でもSDGsという言葉がすごく聞くようになって意識し始めた。私にも何かできることはないかと考えて、子どもたちを巻き込んで、簡単なことだが、マイボトルを持ち歩いたり、「何でも残さず食べてね。」と、本当に簡単な目標を掲げながらここ数か月取り組んできた。

SDGsは目標がたくさんあり、全部に目を向けるのは正直難しいが、子ども2人と私だけで正直変わるのかなと思うこともあるが、私のような一般市民もいると思うので、少しでも環境のことを考えていければと思う。レインボープランに関しても、私は平野地区なので、今のところ取組みには関係ないが、レインボープランに関しても私にも何かできることはないかなと考えた。この夏、娘がミニトマトをたくさん食べた年で、レインボープランのシールが貼ってあるミニトマトを買って食べた夏だった。それくらいしかできないが、これからも意識することを忘れずに、取り組んでいきたいと思った。提言書については、最初は文字ばかりで、どこまで読んだかわからなくなったが、修正版は写真やグラフが入り、見やすくなってとても良かった。

委員 F：提言書は、非常に親しみやすく、表現も柔らかくて、読み手に響いてくる。大変見やすいなと思った。今、委員 Eがおっしゃったそのものが、まさにレインボープランの理想の形なんだろうなと思って聞いていた。

提言 1 に“SDGs が提唱する住み続けられる持続可能なまちづくりのために、環境、暮らし、人のつながり～”とある。発足当時“まちづくり”というのはレインボープランの理想の根底にあった。しかし、「まちづくりや理念で飯かんに（ご飯食べられない）」という人もいた。それが二十数年を経て、“まちづくり”がレインボープランの継承すべき一番の柱に掲げられ、人の心に響くことになったんだなと感慨深い思いである。

確か、第 1 回会議の中で、レインボープランにはもともと目標がなかったという話があった。これまでレインボープランに関わってきた身として、レインボープランに目標、ということに対して違和感があった。でもそれがなぜだかわかった。それは、そもそもレインボープランには目標は無かったのだと思う。

目標というのは、いついつまでにどれぐらい達成するというもの。そもそも人の生き方、ものの考え方、暮らし方に目標はなく、それは人としての基本となるもの。その時初めて、レインボープランに目標がなかったのは当たり前のことなのだと気付いた。それはまだまだ到達はしないし、人として暮らしていく上での進行形で、到達するものではない。それがレインボープランの姿であり、この提言書を見たときに、現在進行形の提言書になっているなと気が付いた。この四半世紀にわたって、親、子、孫と三世代に渡って生ごみを出し続けてくださった市民の方、無償で長年レインボープランに携わってきた、取り組んできた方がいたんだということは忘れてはいけないことであり、それが日本や世界にも少なからず影響を与えてきたことは、長井市の大きな誇りだとつくづく感じている。これからも提言書のとおり、心が繋がれていくことが大事だと思っている。

委員 G：今日この会議に来て、最初に提言書を見たときに、カラーできれいな写真が載って

いる提言書を見て、事務局の方には言葉の吟味から写真の厳選、編集など、大変ご苦労があったんだろうなと敬意を表したい。レインボープラン、前向きにと先ほどから話があったが、レインボープランの良さと役割というところを明確に出していただいて、価値のある提言書になったと感じている。

たまたま今日、長井市名誉市民の長沼孝三先生がお書きになった文書と“長井市の教育”という、生まれてから亡くなるまで、どのような学びがあるかということが書かれた冊子が手元に届いた。このレインボープランの良さと役割や、SDGs の教育を考えたとき、私たち長井市民は、自分たちが生きている世代だけが良い思いをしたり、自分たちの世代だけで完結するのではなく、次の世代に向けて、先ほど無償とあったが、多少コストがかかったとしても次にこの世界を支える世代に向けて、私たちは何ができるか、持続可能の本質についているのがこのレインボープランであると思った。学校で、レインボープランの良さって何ですかといったとき、今こうやって大人の人が考えているときの、次の世代の人に対する思いやりであったり、愛情であったり、私たちが助け合いながらやっていくんだということとか、節度を持って生きることの大切さであるとか、そういうひとつひとつの価値がこのレインボープランには詰まっているんだということを改めて感じた。レインボープランの教育的価値、やることの意味や意義、そして、子どもたちに伝えるべきこと、一つ一つに大事なものがあるんだということを改めて思い知らされた。

学校では、理科や総合的な学習の時間に土に関わる学習をしている。ミニトマト、アサガオ、ヒマワリ、ハウセンカを育てたり、畑には、サツマイモ、中でも素晴らしい紅あずまや里芋が採れる。土に関わる学習の時に、ぜひこのレインボープランの手の匂いのついた土と関わる学習ができればいいなと思った。

委員 H: みなさんから貴重な話が聞けたと思う。いろんな角度で考えると、提言書で重要なのは、この提言書をどう使っていくかだと思うが、委員 E から、まだちょっとわかりにくいところがあるという意見もあったが、改めて見てみると、ちょっと抽象的かなという部分があり、市民目線からすれば、これから何をするのかというところを知りたいという感覚があるかなと思う。ただ、この提言書は市長への提言ということで、提言書なのでそれで良いとは思いますが、この後どうするのかという時に、もう一度市民みんなで、市民とどう関わって次の展開をしていくのかという段階でもう一つ何か必要なのかなと思う。

併せて、そもそも目標がなかったという（委員 F の）話、それはその通りだなと思った。今回、SDGs が意識されているが、SDGs の目標が持続可能な社会をつくること、それはレインボープランも同じ、確かに生きるために必要なことをやるだけだ、それはゴミだけではない。いろんなことにすべて当てはまる。いろんなものの循環を作っていかなければならない。だからこそ、SDGs という多角的な観点で持ってもう一度レインボープランを捉えることが求められる。これまでの成功、サクセスストーリーを大事にしつつ、もう少し広がりを作っていかなければならないと思う。

また、委員 C がおっしゃった事業者さんとの関係の持ち方、鈴木酒造さんのような事業

者さんがいろんな形で環境や SDGs に取り組んでいらっしゃる、これも非常に大事な新しい流れであるし、経済の中での環境のことを考えなければならない。

市民のモラル、理念だけではなく実態経済としての動きが出ている中で、事業者さんの活動とレインボープランを合わせていかなければならないし、市民とのセットも出てくると思う。

レインボープランは中心部と郊外という関係がずっと続いてスタートしたわけだが、先ほど委員 B から町内会でもっとできることという話があった。レインボープランと同じような仕組みを作ってきたのが庄内の旧立川町。立川町でも、同じような経済性の問題でコンポストセンターをやめた経過がある。町全体とか市全体で取り組む事業としての効率性には課題があって、もう少し、どういうスケールでやればいいのかを考え直さないといけないと思う。そういう意味では、まず一番小さな循環を作っていく、自分の家の中でコンポストを作って、自分の庭で使う。これをやったうえで、レインボープランを見直す。家庭の中でできないのであれば町内会でやる。町内会でできなければ学校区、合併前の村単位でやってみるなど、それは、生ごみのことだけでなく、地域コミュニティをどう持続させるか、その問題に行きつく。地域の持続可能性は、市全体で市役所に全部お任せではもうやっていけないのは明らかであり、もっと身近なコミュニティをどう立て直すかという大きい問題がある。その一つにレインボープランがあったり、SDGs があったり、いろんな多角的な見方が必要になってくると思う。

農業がこれからどうなっていくのか、これは非常に大きい問題で、レインボープラン以外のいろんな有機資源が少しずつ進んできたという評価があったわけだが、長井では特別栽培米の割合はどれくらいになっているのか。委員 A にお聞きしたい。

委員 A：市全体といわれると把握しかねるが、私のグループでは 1 8 0 ha のうち、1 4 0 ha が特別栽培米になっている。しかし、特別栽培米だからといって慣行栽培より高く売れるかという、そうではないのが現状、当たり前の基準になっている。

委員 H：立派な環境保全型農業だと思うので、もう少しアピール性をどうしていけばいいのか、そのあたりが課題なのかと思う。年々、環境保全に求められるレベルが高くなり、それが標準になっていくとすれば、もっと高いレベルを目指す必要があるのかもしれないので、それがまた議論の一つになると感じた。

座 長：みなさんから様々なご意見をいただいた。

レインボープランは市民の参加が一番重要な要素であり、そこをどう残すかが重要であるが、次にどうつなげるかということが提言できた点は良かったと思う。

レインボープランはある意味、長井の地域ブランドになっている。地域の個性を生かしたり、経済などいろんな側面に大きな影響を与えるという点で、これをどう残すかが重要なポイントである。その点で、基本コンセプトを市民参加型の環境、持続可能なまちづくりとし、これを守りつつ次の世代につなげる提言書が、みなさんのご協力が無事にできたことは非常に良かったと思う。

複数の委員からあったように、これはスタートラインであって、これをどう使っていく

かが大事。これからまだまだ市民の方にどう広げていくか、新しい取り組みが必要であり、これからどう使っていくか、機会があればまた相談していきたい。

座 長：提言書について、これを持って完成ということではいいか。
一同 異議なし。

4. 今後のスケジュールについて

11月8日 下平委員長から市長へ、提言書提出
当日は、プレスリリースを行い、提言書は市のホームページにアップする予定。
提言書を受けて、市として具体的な施策が決まった段階で、委員あて文書等でお知らせする。

下平委員長：この会議はこれで終了か。

事務局：会議自体はこれで終了となるが、今後、令和6年度に環境基本計画が改定されるにあたり、来年、再来年に向け環境審議会場でさまざまな議論がなされることになる。この会議自体をそちらに昇華させることも考えられる。いずれにしても、方向性が定まった段階で、みなさまには文書でお示ししたいと考えている。

委員 A：つまるところ、コンポストセンターはどうなるのか。

事務局：今回、11月8日に提言書を市長に提出いただくが、これまでの議事録もあり、我々担当部署が予算要求と併せて今後の施策を検討していきたいと思っている。具体的に、コンポストセンターをやめる、やめないはまだはっきり決まっていない。すでに10月に入り、来年度の予算要求も今々なので、来年度の事業については継続するしかないと思っているが、来月の市長への提言を受けての動き出しになるので、よろしく願いしたい。方向性ができれば、みなさまにもご相談しながら進めていきたい。

委員 A：簡単に幕引きはだめだよ、というのがこの場の総意だと思っている。

事務局：下平先生からも、住民参加、そして地域のブランドという話があったが、そこは何としても残すような形でこれから施策の検討を進めていきたいと考えている。

委員 C：コンポストセンターはずっと市民の中でも話題になっているし、どういう決定がされるかわからないが、行政の中で何かアイディアはあるのか。それともうかつに話せないことか。ゼロか百かという話ではないのか、と聞いてくる人がたくさんいる。そこで私も余計なことは言えないが、実際どういう話になっているのか。

事務局：今までのような大規模なコンポストセンターは難しいと思うが、酒米の話もあったが、そこは残していきたいと思っているので、何らかの形でコンポストセンターは必要だと個人的には思っている。ただ、週2回の生ごみ回収、そこに回収車を使ってという現在の形は見直さなければとは思っている。そこに絡めるのがコミュニティセンターを使って、とか、市民の方に持ち込んでもらって、とか、家庭用のコンポストを使って、など、まだみなさんにこうします、とは言えないが、様々検討している案はある。

下平委員長：みなさん、不安に思っていらっしゃる方もいると思うので、早めに周知いただければと思う。それぞれ個別に何かあれば、問合せいただければと思う。

5. その他

特になし

6. 閉会